

温泉津重要伝統的建造物群保存地区（全体）

かつては地味な漁村であり、あまり知られていない温泉街であった温泉津は、**1561**年に毛利氏が細長い溪谷の入り口に港と水軍のとりでを築いたときから、徐々に石見銀山の重要な供給拠点になりました。町の両側の急勾配で岩だらけの斜面により、敵からの防御が容易であり、温泉津はまもなく、石見銀山に食料、燃料、建築資材、酒、タバコなどの必需品を供給する主要な港として栄えるようになりました。毛利氏は、中国、朝鮮半島その他、遠く離れた国との貿易も行ったため、町に国際的な特色がもたらされました。

温泉津は、江戸時代（**1603**年～**1867**年）に一層栄え、大阪と北陸を結ぶ日本海沿岸の北前航路の中心地点となりました。**1672**年に正式に確立され、後に北海道へと広がったこの有益な航路により、地元のいくつかの氏族は海運業に参入し、大きな富を蓄える機会を得ました。現代の温泉津の区画は、道路や水路を含め、この豊かな時代にまで遡ります。温泉津に現存する最古の建物は、**1747**年の火災で町が焼け落ちた後に建てられた内藤家の屋敷です。この屋敷は有名な一族の邸宅であり、その当主は**1570**年に毛利氏により温泉津の奉行に任命され、近くの沖泊港から出港する銀船の保護を担いました。内藤家は、何世紀にもわたり地元の有力な存在となり、海運業、酒造業、郵便業などを営んでいました。

内藤家の屋敷ほど歴史的なものではありませんが、現在の温泉津の他の建造物もそのほとんどがかなり古いものです。大正時代（**1912**年～**1926**年）に建造されたものが多く、昔ながらの提灯が狭い路地を照らす夕暮れ後にはとりわけはっきりと、町にレトロな雰囲気を漂わせます。現代の温泉津も、温泉で有名です。現在営業中の**2**つの温泉浴場では、元気を回復させる湯を体験できます。